

## 研究ノート

中国における美容整形の流行とその社会的意味  
— 女性が美容整形から得るものは何か —卓 浦 蓮<sup>\*1</sup>

原稿受付平成 30 年 9 月 28 日；原稿受理令和元年 6 月 25 日

The popularity of cosmetic surgery in China and its social meaning  
— What Chinese women seek from plastic surgery —

Pulian Zhuo

## Summary

The cosmetic surgery market has been rapidly developing in modern China, as beauty is an important factor in society's evaluation of women. In order to explore the social significance of cosmetic surgery, this research studies the social backgrounds and the aesthetic perceptions of women who have undergone cosmetic surgery.

To analyze the importance of external beauty to women who have undergone cosmetic surgery, I conducted research at two beauty salons in Suzhou, Anhui Province, and Hangzhou, Zhejiang Province in China. A total of 23 women who had had cosmetic surgery at these salons participated in the study. The research methodology used in this study was a semi-structured interview with a total of 15 questions. Using a combination of the KJ method and narrative analysis method to classify the answers to each question, 59 categories emerged. Further analysis of these categories by the KJ method of re-classification resulted in the identification of three major factors. These were: 1) to get a boyfriend; 2) to maintain family stability; and 3) to prevail in one's chosen career field.

The research results indicate that in modern Chinese society, women are experiencing repression from both "market" and "family," and that the interrelationship between cosmetic surgery and economic resources has deepened social inequality. That is, women from wealthy families are able to marry wealthier men by utilizing their cosmetic beauty. Cosmetic beauty, in addition, can help women live a happy life by stabilizing their family. Furthermore, women in the workforce achieve greater career success using cosmetic beauty as a resource. These three factors are interrelated, and women themselves choose cosmetic surgery as an effective means of accomplishing these purposes. It generates a cycle in which having economic resources makes it possible for women to have cosmetic surgery, and cosmetic beauty in turn generates economic resources. It might be said that this cycle is becoming one of the factors in China's movement towards becoming a deadlocked unequal society.

(Received September, 28, 2018 ; Accepted in revised form June, 25, 2019)

---

\*1 奈良女子大学大学院人間文化研究科

Graduate School of Humanities and Sciences, Nara  
Women's University

## 1 美容整形の始まりと現状

### 1-1 中国における美容整形市場の拡大

2011年、国際美容外科学会（ISAPS）は2010年に世界で実施された美容外科手術・処置数の上位25カ国と地域の調査結果をまとめた報告書『2010年世界美容整形調査』を発表した。同報告書によれば、2010年に行われた美容整形手術の国別件数ランキングでは、1位は米国311万件、2位はブラジル145万件、3位は中国105万件だった。美容整形外科医数の国別ランキングでは、1位は米国5950人、2位はブラジル5024人、3位は中国2000人だった。アメリカで最も多く行われた美容外科手術は、豊胸、脂肪吸引、腹部形成、眼瞼形成、胸のたるみを取る手術であり、中国の場合は脂肪吸引、豊胸、鼻形成、眼瞼形成、腹部形成手術であった<sup>①</sup>。中国のほうが「顔」に関する美容整形が多いことがわかる。2015年中国日報の中文網が報じたところによれば、今や中国では美容整形の市場規模は4500億元以上で、美容整形業界の就業者は3000万人以上に及ぶ<sup>②</sup>。中国では、美容整形を受ける人は女性だけではない。最近では、男性も増えてきた。男性は2割弱を占めているというが、圧倒的多数は女性である<sup>③</sup>。

筆者の第1研究（2016）は、2015年8月中旬から9月中旬にかけて中国安徽省の四大学の1～4年までの学生1211名を対象に、美容整形に関するアンケート調査を行った。その結果、男子3・4年生の30.68%が「伴侶を見つけるために美容整形手術を受けたい」と答えたのに対し、女子3・4年生の場合は23.72%にとどまった。一方、「良い仕事を見つけるために美容整形手術を受けたいですか」という質問に対しては、男子3・4年生の33.63%が「受けたい」と答えたのに対し、女子3・4年生の場合は42.04%にも達した。大学生における美しさの追求の理由は、男子の場合は恋人を得るためであったが、女子の場合は恋人に対してというよりも社会に向けられてのものだったのである。現代の就職をすぐに見つけることが難しいという社会背景をもつ中国人女子学生にとって、美しさとは良い仕事を見つけるために必要な社会進出のツールになっていることがわかる<sup>④</sup>。中国における美容整形市場の急速な拡大は、女性のキャリア志向の拡大と深く結びついている。

李・陳・成（2004/訳2009）によると、女性像の変遷とは、イメージの歴史である。女性像はそれぞれの時代に応じて変化する。各時代の女性像は、社会によって求められる役割や振る舞い、外見を通じて作り出されるとともに、既存の価値観として社会に共有される<sup>⑤</sup>。「人は

女に生まれるのではなく、女になるのだ」とシモーヌ・ド・ボーヴォワールが言ったとおり、女性の外面的なイメージは、生まれついでのものでなく、社会から要請されて作られるものなのである。それは、谷本（2012）が言うように、外見を整えることの意味づけが当該社会によって構築されていくからである<sup>⑥</sup>。

本研究では、中国における美容整形の社会的背景を整理し、美容整形を受けた女性の「美」に対する意識を分析することによって、現代中国社会の特徴を明らかにする。

### 1-2 中国における「身体変工」の歴史

中国では、「身体変工」は古い時代から存在した。その典型が、纏足である。ドロシー・コウ（2005）は、纏足を美容整形になぞらえている<sup>⑦</sup>。

纏足は五代のころに始まり、美しい専用靴を着け上流階層のファッションとして流行りだした。明代社会には漢族女性の風習と化して広まった。清代には最初の禁令も取り下げられ、肉体労働が必要でないかぎりでも下層にまで普及し、よい結婚には小足がまずは必須であった。清末には、漢人に嫁ごうとして、漢人の女性にならって纏足を始めた満州族の女性も現れたという。纏足は中国の独特の「身体変工」風習として千年以上も続いたのである。纏足という「身体変工」は、社会や男性の価値観に照らして形成されたが、女性自身もこの文化を受け入れた。纏足の「美」は、女性抑圧と女性の自己表現という双方の意味を持っていたのである。

20世紀になると、纏足は封建的な女性抑圧慣習として否定され、1920年代にはチャイナドレスを着て化粧をした女性が「新しい女」としてもはやされた。しかし、これも長くは続かなかった。1949年に成立した中華人民共和国（新中国）では、社会主義思想の広まりを背景にして、個人的な幸せよりも集団や国家の充実を満たすことが最優先とされた。国家や集団のために、革命や仕事に集中することが提唱されたのである。そうした風潮の中で、民国期の女性らしさや西洋的な身体美、モダンな姿が否定されていく。新中国では、男女の差別がつかないような中性的な女性が理想とされるようになった<sup>⑧</sup>。

大平（2014）によれば、中国では、1949年の中華人民共和国成立以降、とりわけ文化大革命中（1966-76）には、着飾らない質素な姿こそが美しいとされ、軍服風ファッションが若い女性の憧れのスタイルになった<sup>⑨</sup>。

文化大革命が失敗した後、中性的な女性観は否定され、男性とは異なる女性性の強調が復活することになる。それとともに女性らしさが再び注目されるようになり、服装、髪型、話し方、仕草や振る舞いから「女性」という

イメージが浮き彫りにされるようになった。同時に口紅をつけ、眉を引き、アイシャドーを塗るなど、化粧が女性の生活に入り始めた。都市部では「白領麗人」（きれいなオフィスレディー）が出現し、女性美の基準はさらに多様化した。

1990年代から、中国人の生活は、物質面、精神面ともに大きく変化した。外の世界を知ることで刺激を受け、古い考えや習慣の束縛から人びとは徐々に抜け出していった。このような社会変化を背景に、一部の俳優たちや美を追求する中年の女性たちが美容整形を始めるようになり、近年は就職や結婚のためにプチ整形をする若い女性も増えてきた。その際、「美」の規準は目を大きくして、鼻を高くするという欧米モデルに基づくものとなった<sup>1)</sup>。

## 2 美容整形—欧米美に基づく審美観

ヨーロッパで生まれた美容整形は、基本的に西欧的審美観に基づいて診断をする。二重瞼にする手術や鼻を高くする手術は、白人の身体形態に近づけるものでもある<sup>7)</sup>。中国でニーズが高い美容整形の診断基準から見れば、中国の美容整形は白人美がグローバル・スタンダードになる牽引役を果たしていることになる。

美容整形では、一重瞼や低い鼻などある種の形態は当然のように治療対象とされてきた。診断基準が白人（コーカシアン）の身体美に依拠しているからである。白人の身体形態だけに基いて美を判定し、そこから遠い形態を醜いとして治療対象とするのは、かなり単純で乱暴なやり方といえる。それを可能にしてきたのは、15世紀大航海時代以降の西欧社会の軍事的・政治的・経済的優越である。皮膚の色、目の形、鼻の形といった身体形態の違いを説明する「人種」概念は、ヨーロッパ人がその他の人たちを導くにふさわしいという結論を得るために用いられた<sup>8)</sup>。西欧的審美観が人類に普遍的な尺度にすり替えられたのである。この尺度に応じて、例えば「アフリカ人」「アジア人」「ユダヤ人」と見なされる皮膚の色、目の形、鼻の形が、「美」とは対極にある「醜さ」と決めつけられた<sup>9)</sup>。ヨーロッパを頂点とした「人種」概念と審美観は、社会一般、さらには生物医学自体に内在する価値観でもある<sup>10)</sup>。

また、川添によれば、人類史が明らかにしているのは、それぞれの社会には「当り前の身体」「理想の身体」といったモデルがあり、人間の身体はそれに即して加工されているということである。従って、本来理想とされる身体や美しいとされる身体形態には多様性がある。「美」とい

う観念自体が、人間観や能力、そこから導き出された仕草やマナーや形など、様々な要素と複雑に絡み合って構成されている。しかし植民地主義、帝国主義、グローバル化で優位に立った西欧の価値観は、「美」や身体の観念にも大きな影響力を及ぼすようになっている。既にメディアや市場では、白人の身体形態に依拠した美が優越している。美容整形はギリシャ・ローマに端を発する美に依拠しながら、「当り前の身体」「理想的な（自然）の身体」を具体化してきた。グローバル化の中で拡大してきた美容整形は、その技術もグローバルな普遍性を持ち、その実践は白人美のグローバル化の促進を意味する<sup>11)</sup>。

## 3 調査と結果

筆者の第1研究（2016）は、女性が就職や結婚のために美容整形をする実態を明らかにしたものである。とくに女子大学生が美容整形を望む理由は恋人のためというよりも、就職を強く意識してのものであった。その意味で、筆者は美容整形は「社会に向けられたもの」であるとの仮説を立てた。現代中国では、一人の平均月収が4134元（2015年国際労働機関の調査）である。単独では家族全員を養うことができないため、共働きが一般的である。このため、女性が少しでも良い条件下で働くことは生活のために必須なのである。内面や能力が大切にされるはずなのに、実際には外見重視の風潮があるため、女性はより良い条件で就職するために自分の容姿に気を遣わざるを得ない。特に若い女性にとってこのような社会からの要請を無視することはほとんど不可能であり、「女性の身体はこうあるのが望ましい」という規範が女性たちに無言のうちにおしつけられる。女性は働きながらも、美しさを気づかわざるを得ず、疲れ切ってしまうのである<sup>1)</sup>。

美容整形をしてまで美しさを手に入れようとする女性たちは、「美しさ」にいったいどのような意味を込めているのか。それを知るには、美容整形を受けた当事者たちの意識を分析しなければならない。以下に、調査と考察結果をまとめる。

### 3-1 研究対象者と手続き

安徽省と浙江省は、経済が発展した華東地域に属し、美容整形がきわめて盛んである。2012年4月、中国の艾瑞調査会社が行ったインターネット調査（全国15歳以上の男女1309人）によれば、美容整形を受けた人は172人、受けたい人は336人であった。地域別には、上海市と江蘇省で美容整形する人が一番多く、広東省と華

東地域（安徽省及び浙江省を含む）がこれに続いた<sup>④</sup>。そこで、本調査では、美容整形が多い地域に属する宿州市と杭州市を対象をしぼった。

安徽省宿州市（人口565.7万人）と浙江省杭州市（人口946.8万人）のエステサロン（2カ所）に協力を依頼し、そのサロンとつながりを持つ10代から50代の美容整形経験者の女性23人に対してインタビュー調査を行った。美容整形は主に都市部で流行しており、宿州市と杭州市の美容整形業界の間には連携する場合が多く見られた。例えば、宿州市から患者を提供し、患者を連れて杭州市で美容整形手術をする。また、杭州市から医者や宿州市へ派遣し美容整形手術をするなどである。

エステサロンの客層は主に中流階級以上で、経済水準が高い人、自営業者など外部の人と接触しなければならない職業の人が多く、また、夏休みなどの大型連休には学生の姿も目立つ。調査協力者の平均年齢は33.65歳で、年齢範囲は16歳から56歳であった。調査協力者の属性と美容整形とのかかわりについては、表1に示す通りである。

データ収集期間は2015年9月から2016年12月までであった。調査方法としては、半構造的インタビューを実施した。質問内容は、15項目で、その15項目の有効・無効性については、表2に示す通りである。

### 3-2 インタビュー項目と語りの一次整理

各項目の回答をKJ法に準ずる方法でナラティブ分析した結果、表2の通りになった。2つ以上の内容が入っている回答は、2カテゴリーに分けた。

その結果、質問1は7カテゴリー、質問2は5カテゴリー、質問3は2カテゴリー、質問4は5カテゴリー、質問5は3カテゴリー、質問6は4カテゴリー、質問7は2カテゴリー、質問8は5カテゴリー、質問9は3カテゴリー、質問10は3カテゴリー、質問11は9カテゴリー、質問12は1カテゴリー、質問13は6カテゴリー、質問14は2カテゴリー、質問15は2カテゴリーに分類できた。

表1 調査協力者の属性と美容整形とのかかわり

名前	年齢(歳)	仕事	婚姻関係	現住所	最初どんな美容整形を施術しましたか。いつ頃ですか。きっかけは何ですか。
A	38	公務員	離婚	安徽省	鼻/2年前/離婚、変わりたいから
B	34	事業部門	既婚	安徽省	二重まぶた/2000年/きれいになりたいから
C	33	エステのオーナー	既婚	浙江省	二重まぶた/10年前/きれいになりたいから
D	44	企業	離婚	安徽省	レーザー脱毛/20年前/見た目がきれいじゃなかったから
E	49	事業部門	既婚	安徽省	二重まぶた/20年前/きれいになりたいから
F	43	エステ関係	既婚	安徽省	二重まぶた/1995年/きれいになりたいから
G	54	エステのオーナー	離婚	浙江省	法令紋/2年前/上海の美容医院のオープン記念の無料体験に当たった。
H	52	公務員	既婚	安徽省	下まぶた/3年前/美しく、そして若くなりたいから
I	56	エステのオーナー	離婚	浙江省	目、鼻、口、頬骨、エラ、あご/10年前から始まり/40代の時、離婚・店倒産を経験し、運が良くなるためにしたから
J	23	エステ関係	独身	安徽省	二重まぶた、目じり開く/2年前/きれいになりたいから
K	23	看護師	独身	安徽省	鼻/2014年/変わりたいから
L	25	インテリアデザイナー	独身	安徽省	目/3年前/きれいになりたいから
M	37	教師	既婚	浙江省	アゴ/2年前/夫の浮気が心配だから、息子のために完璧な家庭になるため
N	36	専業主婦	既婚	浙江省	全顔/5年前/夫が別の女性に気を取られないように
O	27	看護師	独身	安徽省	鼻/2015年/きれいになりたいから
P	28	保険のセールスレディ	独身	安徽省	二重まぶた/2016年2月/きれいになりたいから
Q	26	エステ関係	既婚	安徽省	二重まぶた/2016年3月/きれいになりたいから
R	31	エステの店員	既婚	安徽省	目/30歳の時/変わりたいから
S	33	ネイルアーティスト	既婚	安徽省	目/2008年/きれいになりたいから
T	26	エステ関係	既婚	安徽省	二重まぶた/2008年/二重まぶたは一重まぶたよりきれいと思うから
U	22	国営企業	独身	安徽省	二重まぶた/2016年/彼氏がほしいから
V	16	高校2年生	独身	安徽省	鼻、二重まぶた/半年前/たくさんの人はやっているから、私もやりたい。もっときれいになりたい、もっと自信を高めたい
W	18	高校3年生	独身	安徽省	アゴ、二重まぶた/1年前/社会からの影響はみんなに受け入れる、皆きれいになりたいから、自信を高めたいから

表2 インタビュー 15項目と語りの一次整理

質問項目	カテゴリー (名前)	質問項目	カテゴリー (名前)
1. 人生において大事な事は何だと思えますか。 有効 (21) 無効 (2)	① 人生において仕事的大事 (F,K,L,O,Q) ② 人生において楽しく過ごすことが大事 (A,D,G,I) ③ 人生において健康が大事 (B,E,H,R,T) ④ 人生において家族が大事 (C,F,J) ⑤ 人生において自分が美しい事が大事 (N,P) ⑥ 自分がいい大学に入る事が大事 (V,W) ⑦ 人生においてお金が大事 (U)	2. 美容整形を始めたきっかけは何ですか。 有効 (23) 無効 (0)	① きれいになると自信がつくから (B,C,D,E,F,H,J,L,O,P,Q,S,T,V,W) ② きれいになると運命が変わるから (A,I,K,R) ③ きれいになると夫との関係がうまく行くから (M,N) ④ きれいになると商売がうまく行くから (G) ⑤ 彼氏が欲しいから (U)
3. 美容整形を続けていますか。 有効 (22) 無効 (1)	① 美容整形を続けていない (D,E,F,H,J,K,L,M,O,P,Q,R,T,U,V,W) ② 美容整形を続けるのはもっときれいになりたいから (A,B,C,G,I,S)	4. 美容整形に使ったお金はどこで手に入れましたか。 有効 (23) 無効 (0)	① 自分のお金で美容整形をした (A,B,C,D,E,F,H,J,M,P,R,S,T) ② 親のお金で美容整形をした (K,L,O,U,V,W) ③ 夫のお金で美容整形をした (N,Q) ④ 借金をして美容整形をした (I) ⑤ 無料だった (G)
5. 美容整形をこれからする可能性がありますか。 有効 (23) 無効 (0)	① きれいになるために美容整形をこれからもしたいと思う (B,C,I,J,K,N,O,P,R,S,T,U,V,W) ② 自信を高めるために美容整形をこれからもしたいと思う (A,G,M) ③ 満足しているので美容整形は必要ではない (D,E,F,H,L,Q)	6. 美容整形をしたことで周囲がどう反応しましたか。 有効 (21) 無効 (2)	① 周囲の反応が良い (A,B,C,F,G,H,I,K,L,O,P,Q,S,T) ② 周囲は気がつかない (D,E,R,U) ③ 夫は気が付かない (M,N) ④ 周囲の反応は「良い」と「悪い」がある (J)
7. 普段のお手入れは何ですか。 有効 (23) 無効 (0)	① エステに行ったり毎日スキンケアをして、普段のお手入れを欠かさない (A,B,C,E,F,G,I,J,K,L,M,N,O,P,Q,R,S,T,U,V,W) ② あまりお手入れしていない (D,H)	8. 美容整形をしたことを周囲に秘密にしますか。 有効 (23) 無効 (0)	① 美容整形をしたことを秘密にする (E,H,K,L,O,P,R,V,W) ② 美容整形をしたことを特に秘密にはしない (A,B,C,D,F,I,J,Q,S,T) ③ 美容整形をしたことを夫に秘密にする (M,N) ④ 美容整形をしたことを宣伝する (G) ⑤ 美容整形をしたことを彼氏に秘密にする (U)
9. 仕事上のメリットとデメリットはありますか。 有効 (20) 無効 (3)	① 美容整形をしたことで仕事上メリットがあった (A,C,E,F,H,I,J,M,Q,R,S) ② 美容整形をしたことで仕事上有利な出来事が起こった (G,L,T) ③ 美容整形が仕事に直接影響しない (B,D,K,N,O,P)	10. 心理的なメリットとデメリットはありますか。 有効 (23) 無効 (0)	① 美容整形をしたことで心理的メリットがあった (A,C,D,E,F,H,I,J,K,L,M,N,O,P,Q,R,S,T,U,V,W) ② 美容整形をしたことで心理的メリットとデメリットがあった (B) ③ 美容整形をしたことで心理的デメリットがあった (G)
11. ストレスに感じることありますか。 有効 (20) 無効 (3)	① 仕事でうまく行かないことがストレス (F,J,K,S) ② 仕事と家庭でうまく行かないことがストレス (C,G,H,I,R) ③ 自分の思い通りに行かないことがストレス (A,E,L,T) ④ 体調が悪いがストレス (D) ⑤ 夫の浮気を心配することがストレス (M,N) ⑥ お金がないことがストレス (B) ⑦ ダイエットがうまく行かないことがストレス (B) ⑧ 試験で良い点が取れないことがストレス (V,W) ⑨ 自分にとって良い将来を選ばないといけないことがストレス (U)	12. 女性はきれいな方が良いですか。 有効 (23) 無効 (0)	① 女性はきれいな方が良い (A,B,C,D,E,F,G,H,I,J,K,L,M,N,O,P,Q,R,S,T,U,V,W)
13. 女性が美しくないとどうなりますか。 有効 (19) 無効 (4)	① 女性が美しくないとチャンスがない (E,F,I,J,R) ② 女性が美しくないと恋人が見つからない (B,G,K,S) ③ 女性が美しくないと良い仕事が見つからない (B, C,L,S) ④ 女性が美しくないと自信がなくなる (A,D,F,G,H,I,K,V,W) ⑤ 女性が美しくないと家庭が乱れる (C,F,M,N,T) ⑥ 女性が美しくないと友達も少ない (L)	14. 若く見られたいですか。 有効 (20) 無効 (3)	① 見た目の若さには価値がある (A,B,C,E,F,G,H,I,J,K,L,N,O,P,Q,R,S,T,U) ② 見た目の若さにあまり価値を感じない (D)
		15. 将来子供が美容整形するなら支持しますか。 有効 (19) 無効 (4)	① 子供が美容整形することを支持する (A,B,C,D,E,F,H,I,J,K,L,O,P,Q,R,S,T,U) ② 孫の将来を考えると嫁が美容整形することを支持しない (G)

3-3 語りの二次整理と要因関連図

総カテゴリ59を、再度KJ法に準ずる方法で分類し、要因関連図に表した。それが図1である。

図1の左側から説明すると、美容整形を選択する中国女性は、「美しさは重要である(7カテゴリ)」とされていることがわかる。その理由として語られるのは、たとえば、美しくない自信がなくなり、きれいになると自信がつくからエステに通い、毎日スキンケアをして、普段の手入りを欠かさないといったことである。また、彼女たちは、ファッションやスキンケアとあわせて美容整形を選択している。

自分の美しさと美容整形との関係については、「美容整形を今後も選択する予定(3カテゴリ)」と「満足して

いるので選択しない(4カテゴリ)」という2つに分かれた。前者の場合、美しくなることに貪欲で、必要ならば今後も手を加え続けようとする姿勢が見られ、美しさに言葉以上の深い意味を付与していると思われる。

3-4 3つのタイプとその分析

美しさを重視し、必要ならば美容整形を今後も選択すると考える人たちは、3タイプに分けることができる。これらを、彼女たちの語りに照らして、(1) 恋人を得るため、(2) 家庭を守るため、(3) 出世競争に勝ち抜くためと呼んでおきたい。以下に、その概要を示しておく。他方、3タイプと職業別とのかかわりは表3に示す通りである。

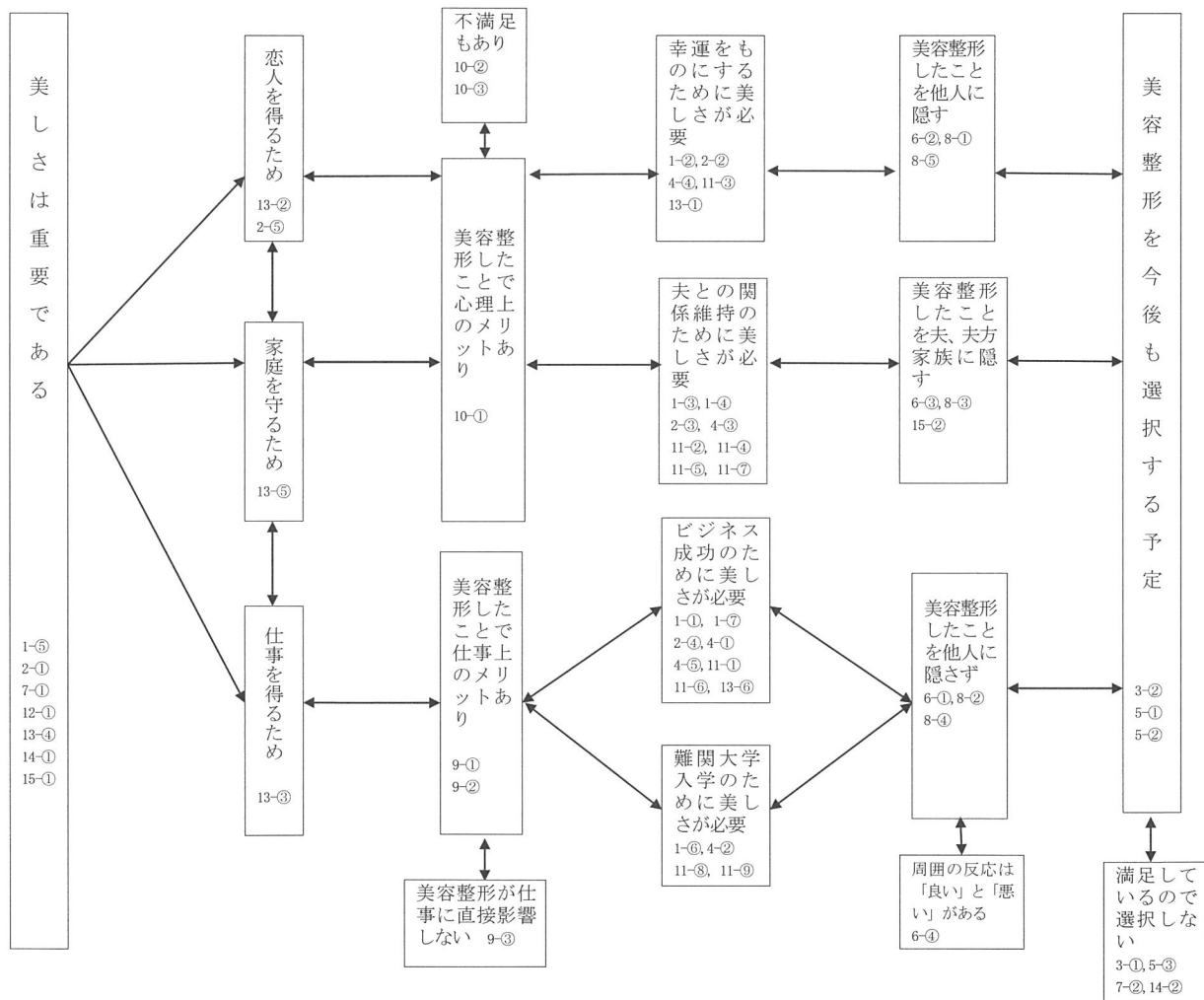


図1 語りの二次整理と要因関連図

表3 3タイプと職業別とのかかわりについて

	恋人を得るため	家庭を守るため	出世競争に勝ち抜くため
美容業界 (C,F,G,I,J,Q,R,S,T)	F,G,I,J,R,S,T	C,F,G,I,J,Q,R,T	C,F,G,J,Q,R,S,T
公務員・教師など安定した職業 (A,B,D,E,H,M,U)	A,B,D,E,U	B,D,E,H,M	A,B,D,E,H,M,U
その他 (K,L,N,O,P,V,W)	K,L	N	K,L,O,P,V,W

### (1) 恋人を得るため

「恋人を得るため」というタイプは、美しさが恋人や配偶者を得るという幸運につながっているという要因関連があるものを指す。関連するのは、「恋人を得るため(2 カテゴリー)」「美容整形したことで心理上のメリットあり(1 カテゴリー)」「不満足もあり(2 カテゴリー)」「幸運をものにするために美しさが必要(5 カテゴリー)」「美容整形したことを他人に隠す(3 カテゴリー)」の5つである。

まず、女性の美しさは、恋人を得るための条件として捉えられている。

次に、整形して美しくなろうとしたが、その満足について、満足した人もいれば不満をもつ人もいる。満足として、美容整形をしたことで自分自身の自信が高まったとか、気分が良くなったことが挙げられている。不満としては、美容整形をした後、顔が長くなった(恐らくそちらの方が流行の顔だが、本人は以前の丸い顔立ちが気に入っていた)、美容整形の費用がやや高いが挙げられた。

美容整形の動機は、幸運をものにするために美しさが必要という価値観にまとめられる。彼女たちが考える「幸運」とは、恋人やチャンス、運命を変える出会いであり、それによって思い通りの人生になるというものである。良い恋人や配偶者は自分に幸運をもたらしてくれる存在であり、その相手として選ばれるためには美しさが条件になると信じ、それを実践しようとしている。美しさによって相手に選ばれ人生を楽しく過ごすことが大事なので、そのためには借金をしてでも美しくなろうとする。

他方、彼女たちは、自分が美容整形したことを他人に漏らさず、なるべく秘密にしたいと考えている。とくに、恋人には、自分が人工的に美しさを手に入れたと知られたくないと感じているようである。このタイプの典型的な例と考えられるUさんの語りを示しておこう。

Uさん(22歳、未婚、国営企業)のエピソード

私は今年7月に大学を卒業した。大学の時は、寮に入っていて、1つの部屋で女性6人が一緒に住んでいた。大学2年生の頃から、ルームメイトたちは次々に彼氏ができた。卒業まで私一人だけが、彼氏がなかった。彼氏ができないことでとても悩んでいた。母親もそんな私を心配していた。そこで一念発起して美容整形をすることにした。費用は母親が出してくれた。入社する少し前に、二重まぶたにする手術を行った。手術後は、おしゃれも重視するようになった。その結果、入社した後、何人もの男性から「付き合って

ください」と声をかけられた。最後に、同じような家庭環境、同じような学歴、自分に優しい男性を選んだ。彼の見た目は私の好きなタイプではなかったけれど、彼の卒業大学はとても良い大学で、個人的能力は高いと思う。将来私たち2人が一生懸命仕事をしたら、裕福な生活を送ることができるであろう。美容整形をやってよかったと思う。しかし、自分が美容整形をしたことを彼氏には知られたくない。秘密にしたい。

結婚したら、2人一緒に働くことが理想で、私は自分に収入があると落ち着く。今の私は彼より収入が高いが、今後彼の方が私の収入より高くなっても構わない。でも自分が仕事を持つことが大事だと思う。

「シンデレラの美」は、本来は、何も持たない女の子が一発逆転するための武器である。しかし、美容整形によって「美」を獲得しようとするならば、整形を実現するための資源(経済力)が必要である。

美容整形には、平均10000円かかる。それは、女性の2か月分の月収に相当する。本調査からも明らかのように、現代中国では、美容整形によって獲得した「美」は、貧困女性の一発逆転のための武器というよりも、裕福な家庭の女性たちがより上昇するための手段に他ならない。

### (2) 家庭を守るため

「家庭を守るため」というタイプは、女性の美しさが夫との関係を円滑にして家庭を守ることに繋がっているという要因関連があるものを指す。関連するのは、「家庭を守るため(1 カテゴリー)」「美容整形したことで心理上のメリットあり(1 カテゴリー)」「不満足もあり(2 カテゴリー)」「夫との関係維持のために美しさが必要(8 カテゴリー)」「美容整形したことを夫、夫方家族に隠す(3 カテゴリー)」の5つである。

まず「家庭を守るため」では、女性が美しくないと家庭が乱れると考えられている。家庭を守るための条件として、女性の美しさが捉えられているのである。

前述のタイプと同じく、家庭を守るためのタイプにも満足した人と不満をもつ人がいた。

美容整形の動機は、夫との関係維持のために美しが必要ということであった。妻という立場の女性の人生においては、家族が安定して暮らしていけることが大事で、そのために夫が浮気をして自分と子どもを顧みなくなるとは困る。夫の関心を家族に引き付けておくために、彼女たちは何より自分の美しさを資源として利用する。家庭を守るために、いつまでも夫に好かれる美しさを備えていなければならないと考えているのである。

経済力のない女性が家庭を守ることに熱心かという点、一概にそう言い切ることはできない。専業主婦だけでなく、教師などもまたこの話を語っていたからである。彼女たちは自分の美しさによって夫との関係がうまくいったり、完璧な家庭になると述べていた。

彼女たちは夫の金で美容整形をすることもあるが、それを夫や夫方家族には極力秘密にする。顔の形が変わるとさすがに夫も気付くと思われるが、彼女たちは、夫は気がつかなかったと主張していた。人工的に美しくなることを秘密にするのは、夫方家族に対し騙していると感じているからのようだ。改革開放以降、人々の生活が豊かになり、「婚外恋」、「第三者」、「包二奶」といった不倫問題が深刻になった。それゆえ、家庭を守るために美しさが必要という価値観を信じる気持ちは強固で、自分の娘にも同じようにしてあげようと考えている。このタイプの典型的な例と考えられる Nさんと Mさんの語りを示しておこう。

Nさん（36歳、既婚、専業主婦）のエピソード

自分にとって美しいことはとても大事。夫は再婚だが、もともとは、私は夫の浮気の相手だった。だから、また彼が浮気をしないかとても不安がある。夫が別の女性に気を取られないように、12万円で顔を全部美容整形した。美容整形をやってよかった。これからもしようと思う。美容整形に使ったお金は、夫からもらった小遣いを貯めたお金である。夫は私が美容整形をしたと思っていない。エステでスキンケアをしてもらってきれいになった、と思っている。夫は生まれ持っている顔は本物で、美容整形した顔は偽物と考えている。もし私がこんな大金で美容整形したことを知ったら、夫に捨てられるだろう。だから美容整形したことを夫や夫の家族には秘密にする。

Mさん（37歳、既婚、教師）のエピソード

自分にとっては家族が安定して暮らしていけることが大事。夫は美容整形前の私の外見を嫌っていたので、外遊びや食事などに連れて行ってもらえなかった。また以前は、夫は1ヶ月に20日くらい家に帰らないことがあった。子どものためにも完璧な家庭になるため、2年前に美容整形をした。美容整形に使ったお金は、自分で働いたお金を少しずつ貯めたもの。だから今、貯金は全然ない。だけど、美容整形をやったよかったと思っている。夫の態度は、以前よりよくなった。自分としても自信が高まった。これから美容整形を続けていきたいと思う。だけど、夫は

私が美容整形したことには気がつかなかった。私としても夫には知られたくない。やっぱり、男性は美容整形が嫌い。将来子どもがもし美容整形したいと言ったら、子どもにやってあげようと思う。

彼女たちの語りを見ていると、既婚女性にとっては家庭の安定が大事であることが分かる。専業主婦だけでなく、有職女性もまた、家庭を守るために美容整形をしてまで美しくしなければならないと考えていた。美しくなりたいという女性たちの願望の中には、近代以降の性別役割を前提にした家父長制の思想が残されていると言えよう。

### (3) 出世競争に勝ち抜くため

「出世競争に勝ち抜くため」というタイプは、女性の美しさが出世競争に勝ち抜くことにつながっているという要因関連があるものを指す。関連するのは、「仕事を得るため（1 カテゴリー）」「美容整形したことで仕事上のメリットあり（2 カテゴリー）」「美容整形が仕事に直接影響しない（1 カテゴリー）」「ビジネス成功のために美しさが必要（8 カテゴリー）」「難関大学入学のために美しさが必要（4 カテゴリー）」「美容整形したことを他人に隠さず（3 カテゴリー）」「周囲の反応は「良い」と「悪い」がある（1 カテゴリー）」の7つである。

まず「仕事を得るため」では、女性は美しくないと仕事を得られないと考えている。仕事を得るための条件として、女性の美しさが捉えられている。

次に、整形して美しくなることについて、多くの人が仕事上のメリットを感じていた。仕事上のメリットを語る人は、エステのオーナーやその関係者、ネイルアーティスト、インテリアデザイナーといった人である。彼女たちは自分の美しさによって仕事上有利になったり、商売がうまく行ったり、あるいは就職が有利になったりすると述べた。一方、仕事上のメリットを感じない人も少数ながら存在した。事業部門、看護師、企業、保険のセールスレディといった職業の人たちである。しかし、彼女たちもまた美容整形をしたことで自分自身の自信が高まったとか、気分が良くなった心理的メリットがあったと述べている。

美容整形の動機についてまとめると、ビジネスの成功のために美しさが必要、または難関大学入学のために美しさが必要ということになる。前者は、人生において仕事の成功やお金が大事で、それがないと強いストレスを感じていた。後者は、難関大学（芸術系）入学の面接試験でアピールするためには美しさが必要で、試験で良い点が取れないことがストレスと感じていた。厳しい競

争を勝ち抜くために、自分の美しさを武器にしようと考え、美容整形を積極的に選択しているのである。

彼女たちは美しいことが重視される状況に置かれている場合がほとんどなので、美容整形を隠すというよりは、むしろ隠さずに他者と積極的に交流し、自分の商売の宣伝に使ったりもする。周囲の人の反応は良い場合もあるが、悪い場合もちろんある。しかし、本人たちの美しさ獲得に対する満足度は高い。このタイプの典型的な例と考えられるGさんとLさんの語りを示す。

Gさん (54歳、離婚、エステ関係) のエピソード

2年前に、上海の美容医院のオープン記念の無料体験に当たった。お客さんをそこへ紹介する代わりに、ただでやってもらった(紹介料を取ることができる)。自分はあまり美容整形がすきじゃないけど、商売のためにやらなければならない。他の美容室のオーナーから「あなたがやらないと、お客さんを紹介できないでしょう? 儲けられないよ」と言われた。結果としてやってよかった。本当に紹介料で儲かったから。お客さんにお勧めできたから。美容整形をした事を宣伝する。20年前に離婚して、一人で子どもを育ててきた。きれいなお陰で、学歴はないけど(高卒)、自分の努力で高級車やマンションなどを全部手に入れている。この商売をやっているから、やっぱり外見は重要と思う。自分が美しくないと、お客さんは来ない。美しいことはとても重要。60歳になって、しわが多くなって、顔が崩れる場合はまた美容整形をやりたい。今は、自分の顔にまだ自信があるから、やらなくていいと思う。

Lさん (25歳、独身、インテリアデザイナー) のエピソード

自分にとっては仕事で大事で、大学の時、父親のお金で二重まぶた手術をした。きれいなお陰で、卒業してからしばらくして、良い仕事が見つかった。面接で、上司から、「(仕事上の) 経験がなくてもいい。会社に入ったら、ちゃんと勉強してね」と言われた。一緒に受けた、仕事上の経験を持っていた人は受からなかった(私より美しくなかった)。きれいじゃないと良い仕事が見つからない。友だちと付き合う時も顔を見る。きれいじゃないと、友達も少ないと思う。将来は自分の店を作りたい。

二人の語りを見ていると、学歴、職歴を持っていないとも、美しい外見があれば競争に勝ち抜いて、出世することができると考えていることが分かる。女性が個人と

してキャリアアップをはかる手段として美しさが肯定的にとらえられる一方で、就職で女性が差別されていると感じるがゆえにかさ上げの手段として美しさを用いていると考えることもできる。

#### 4 総合考察

調査結果からは、中国人男性は「天生麗質」(生まれつきの美しさ)の女性を好み、女性たちは美容整形したことを夫や恋人に秘密にする傾向があることが分かった。「天生麗質」を装うため、女性たちは大学に入る前や大学を卒業する前に美容整形手術をすることが多い。そして、新しい環境の中では、天生麗質の美人であるようにふるまうのである。化粧だけでは美容整形のような効果を及ぼすことができないため、中国では美容整形が流行ったと考えられる。

現代中国社会の中で、女性は「市場」の抑圧だけでなく「家族」の抑圧もともに受けている。「出世競争に勝ち抜くため」に美しくなければならないという考えを持つ女性は、「恋人を得るため」、「家庭を守るため」に美しくなければならないとも考えていた。さらに、その意識は美容業界以外にも共有されているように思われる。美容整形は一般に高額である。このため、美容整形を行うことができる階層とそうでない階層の間には格差が生まれる。裕福な家庭の女性たちは、美容整形によって「美」を獲得し、優秀な男性との結婚が可能となる。結婚後には、「美」によって家庭を安定させ、幸福な生活を送ることができる。さらに、職場で「美」を武器にして、競争出世に勝ち抜くことができる。これらの3要因は互いに連動しており、女性たち自身が3つの要因に反映された目的を実現するための効果的手段として美容整形を選択していた。

質問15に対する回答が示すように、美容整形を受けた女性は子供にも積極的に美容整形手術を受けさせると考えていた。また、質問4に対する回答が示すように、親は娘に美容整形のお金を出すケースが見られる。このような現実を見ると、経済的資源が美容整形を可能にし、「美」という資源がさらに経済的資源になるという循環は、世代を超えて拡大再生産されていると言えよう。

一方、インタビュー調査した人の中には、一名ながら、借金をしてでも美容整形をする人がいた(Iさん)。そもそも資源の少ない女性にとって、借金をしてでも美容整形をすることは人生を切り拓く重要な手段として位置づけられていると考えられる。しかし、美容整形のデメリットとして挙げられている事項を見ると、美容整形自

体のリスクは決して低くない。また、美しさを保つためには、整形後も美を保つ努力を続けていく必要があり、経済的余力がないと美しさの維持は難しい。

中国において美容整形が隆盛するほどに、美容整形自体がはらむリスクや経済格差の拡大といった弊害や問題がいつそう現実味を帯びてくるであろう。現代中国社会が膠着化した不平等社会に向かう一因になっていると言うこともできるのではないだろうか。「美」という資源と格差拡大の関連については、さらに検討を進めていきたい。

### 注

- ①国際美容外科学会 (ISAPS) が 2011 年に発表した『2010 年世界美容整形調査』報告書。  
<https://www.isaps.org/wp-content/uploads/2017/10/ISAPS-Results-Procedures-2011-1.pdf>  
(ISAPS の公式 HP 2011 年)
- ②中国医療美容服務量年増長率 15.5%。  
<http://cn.chinadaily.com.cn/>  
(中国日報中文網 2015 年 7 月 27 日)
- ③新氧 2018 年医美行業白皮書  
[https://m.soho.com/a/283173510\\_354486/?pvid=000115\\_3w\\_a](https://m.soho.com/a/283173510_354486/?pvid=000115_3w_a)  
(搜狐網 2018 年 12 月 20 日)
- ④魔麗網美容調研報告  
<http://wenku.baidu.com/view/632139e3551810a6f524863d.html>  
(百度文庫 2013 年 1 月 26 日)

### 引用文献

- 1) 卓浦蓮「中国における女性美と女子大学生の社会進出」『日本ジェンダー研究 第20』,2017年,65 - 77 頁.
- 2) 陳惠芬・李子雲・成平『美镜头:百年中国女性形象』,珠海出版社,2004年。(友常勉・葉柳青訳『チャイナ・ガールの1世紀——女性たちの写真が語るもうひとつの中国史』,理想社,2009年,6頁.)
- 3) 谷本奈穂「美容整形・美容医療を望む人々——自分・他者・社会との関連から」関西大学総合情報学部紀要『情報研究』第37号,2012年,39頁.  
<http://kuir.jm.kansai-u.ac.jp/dspace/bitstream/10112/7434/1/KU-1100-20120920-03.pdf>
- 4) Ko, Dorothy. Cinderella's Sisters: A Revisionist History of Foot binding. Berkeley: University of

California Press, 2005.

- 5) 謝黎『チャイナドレスをまとう女性たち——旗袍にみる中国の近・現代』,青弓社,2004年,168頁.
- 6) 大平幸代「美女」,関西中国女性史研究会編『中国女性史入門—女性たちの今と昔』所収,人文書院,2014年,123頁.
- 7) 渡部純至「重瞼術、上眼瞼陥凹症の修正、canthoplasty」『美容形成外科学』所収,1987年,289 - 323頁;川添裕子『美容整形とく普通のわたし>』青弓社,2013年,123頁.
- 8) 川添裕子『美容整形とく普通のわたし>』青弓社,2013年,106頁.
- 9) 本多俊和「うまれる—生物としての人間の成立と「人種」」,本多俊和・棚橋訓・三尾裕子『人類の歴史・地球の現在—文化人類学へのいざない』所収,放送大学教育振興会,2007年,24 - 38頁.
- 10) 川添裕子『美容整形とく普通のわたし>』青弓社,2013年,107頁.
- 11) 川添裕子『美容整形とく普通のわたし>』青弓社,2013年,110頁.